

さ さ も り ぎ す け

# 笹森儀助 — 本校創立の功労者 —

○一階ホールの自動販売機横に、一体のブロンズ像があります。モデルは、青森商業高校の前身である私立「青森商業補習夜学校」を創立した笹森儀助（ささもりぎすけ）です。

○明治 35 年(1902 年)5 月、2 代青森市長に就任した儀助は、「青森の発展のためには商業の振興が必要。そのためには人材育成が急務」と考え、商業学校の設立に動きます。こうして、私立「青森商業補習夜学校」が創立されました。

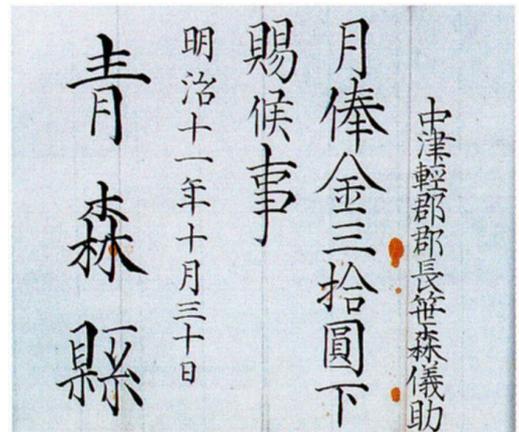
○以後、明治 40 年(1907 年)に青森市立商業高校、大正 15 年(1926 年)に青森県立商業学校、昭和 23 年(1948 年)に青森県立青森商業高校と校名は変わり、校舎も何度か移転して、平成 29 年 4 月に現戸山校舎がスタートしました。平成 30 年で創立 116 年目となる伝統校です。



## 1 青年武士として

○儀助は弘化 2 年(1845 年)、弘前藩の中級藩士・笹森家に生まれました。父が若死にしたため 13 歳で家督を継ぎ、建久(建行)と名のりました。15 歳で藩校「稽古館」に入学し、期待を集めます。しかし、上役が重職から外され、その一味と見られた儀助も処罰されました。

○やがて幕府が倒れ、明治新時代が到来。儀助は明治 4 年(1871 年)の廃藩置県で誕生した青森県の役人となり、さらに第六大区長や中津軽郡長として、人々の生活改善や病院建設、小・中学校の整備などに力を尽くします。



## 2 『千島探験』

○その後、東京に出た儀助は西日本各地の地理・風俗・産業・交通・民情・史跡を見て回ります。その記録『貧旅行之記』は周囲から高く評価されました。

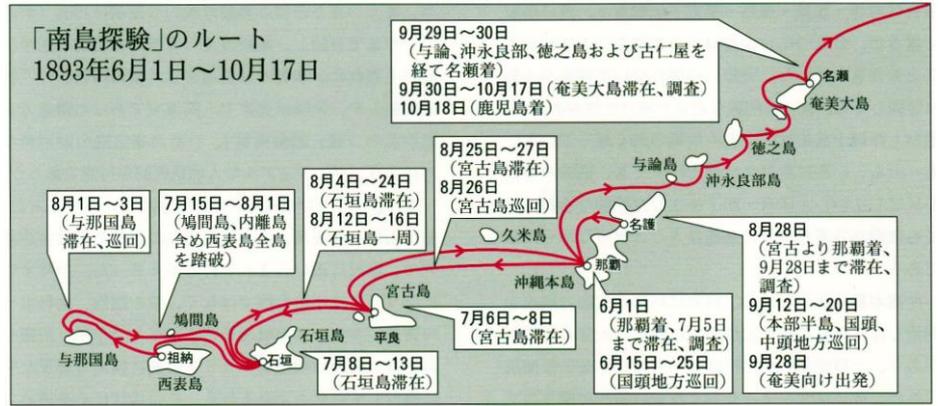
○さらに、弘前出身のジャーナリスト陸羯南（くがかつなん）から「政府が北方探検を計画している」と聞かされ、儀助は自分も参加できるよう、知り合いの政府高官へ頼みました。明治 25(1892)年 7 月から 9 月にかけて千島列島をめぐる 2 か月間の旅のようすは、報告書『千島探験』にまとめられました。



— 知られざる大旅行家 —

### 3 『南島探験』

○儀助の『千島探験』は、「たいへん詳しい」と政府から高く評価されました。  
 ○内務大臣井上馨から「南方も見てきてほしい」と頼まれた儀助は、6～10月の4か月間かけて、奄美大島・沖縄・与那国島を回りました。



○明治27年(1894)、儀助は報告書『南島探験』を提出しました。この書は「沖縄の民情を詳しく、正確に伝えている」と、またも高い評価を受けました。政府は儀助を奄美大島の第5代島司に任命。儀助は次女つるを伴って4年間、赴任しました。  
 ○儀助はこの後、台湾や朝鮮半島へも探検旅行に出ています。



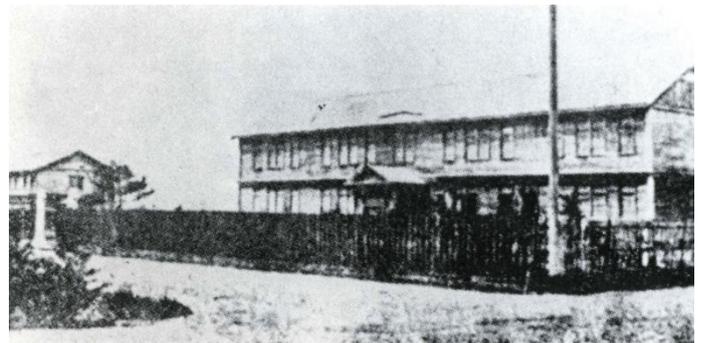
**笹森儀助写真** 明治26年(1893) 笹森家蔵

南島探験の際に撮影したもの。上から落ちてくるヤマビル除けのコウモリ傘を差し、蚊を除けるための団扇を携えている。暑さのせいで裾を端折っているが、虫に刺されてずいぶん腫れたという。この姿で沖縄に入った儀助をみて、地元の人たちは、政府の役人とは信じなかった。

### — 商業教育への情熱 —

### 4 商業学校の設立

○儀助の「青森商業夜間補習学校」は、夜間学校としてスタートしました。職業を持つ生徒が多く、昼間は授業が受けられなかったからです。儀助は校長となり、市長としての公務の合間を縫って、自ら教壇に立ちました。  
 ○右の絵ハガキは開校10周年記念のもので、大正4年(1915)発行です。校名の「青森市立商業学校」は明治40年から、大正15年に「青森県立商業学校」となるまで使用されました。  
 ○明治36年(1903)12月、儀助は青森市長を辞めました。大正4年(1915)9月、弘前で死去。享年71。弘前西光寺に眠っています。



青森市立商業学校の校舎 (青森市浪打)

